

Istanbul Weekly vol.6-no.39

イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2017年11月2日（木）

— 今週のポイント —

- 政治：**宮島駐トルコ日本国大使、エルドアン大統領に信任状を捧呈。
ユルドゥルム首相、ハイリ・ソマリア首相と会談。
- 経済：**バクー・トビリシ・カルス鉄道、開通。
中央銀行、インフレ見通しを下方修正。
- 治安：**警察がイスタンブールでテロ攻撃を企図していた ISIL 戦闘員 4 名を拘束。
警察がイスタンブールで PKK 容疑者 27 名を拘束。
- 軍事：**トルコが国産アサルトライフルの輸出を開始。
- 社会：**マルマライの利用客、4 年で 2 億 2 千 600 万人。
ルメリ・ヒサル城塞を大規模修繕。

政治

【内政】

●宮島駐トルコ日本国大使、エルドアン大統領に信任状を捧呈

10月26日、エルドアン大統領は、大統領官邸で、宮島駐トルコ日本国大使と接見した。宮島大使は、エルドアン大統領に信任状を捧呈した。（10月27日付M紙16面）



（写真は、10月27日付M紙インターネット版より）

●ギョクチェキ・アンカラ市長など、AKP 所属市長が党内刷新の一環で次々と辞任

エルドアン大統領が党刷新の一環として一部のAKP市長の辞任を求めていることを受けて、10月28日、ギョクチェキ・アンカラ市長は、辞任を表明した。同市長は、アンカラ市議会で開催した記者会見で、任期中に罪を犯したことは無かったと述べ、自らの潔白を強調した。また、同30日には、ウール・バルクエシル市長も辞任した。（10月29日付H紙26面及び10月31日付M紙15面）

●新党「優良党」の幹部人事、一部明らかに

10月25日に、アクシェネル氏を党首として結成した「優良党」の幹部人事が一部明らかになった。議長会議のメンバーとして選出された12人のうち、7名がMHP出身者であることや、CHPから離党したアイトウン・チュライ氏が幹事長に任命されたことが注目されている。（10月27日付H紙18面及び10月28日

付M紙19面）

●クルチダルオール CHP 党首、統一地方選挙の早期実施を提案

10月24日、クルチダルオール CHP 党首は、党内刷新の一環で実施された、相次ぐAKP市長の辞任に対し、後任市長は市議会で開催される投票のみにより決定されるため、国民の声が反映されていない旨批判し、2019年に予定されている統一地方選挙の早期実施を要求した。これに対し、28日、エルドアン大統領は、民主主義において、選挙の時期は特定されると主張し、同要求を拒絶した。（10月25日付M紙18面及び10月29日付M紙20面）

●エルドアン大統領に対する「独裁者」発言、波紋を広げる

10月21日、テキルダール県のエシュキナット・スレイマンパシャ区長は、CHPの党県支部会合において行った演説で、エルドアン大統領を「ファシストの独裁者」と発言。同発言が大統領への侮辱罪として起訴されたことに対し、10月30日、テズジャン CHP 副党首は、「エルドアン大統領は独裁者そのものである」と発言し、同区長を援護した。11月1日、エルドアン大統領は、同副党首に対し、5万トルコリラ（約150万円）の損害賠償を求めた。（10月31日付H紙19面及び11月1日付H紙14面）

●相次ぐ市長の辞任：エルドアン大統領、他政党の市長にも言及

1日、エルドアン大統領は、アゼルバイジャン訪問の往路フライトで記者団に対し、AKP市長の相次ぐ辞任について、同市長らは、辞職後も党員として留まることは可能である旨述べた。その一方で、他政党に所属する市長については、所属する党がそれぞれの市長を巡る問題を解決しない場合、内務省が介入を行う可能性がある旨発言した。（11月2日付M紙14面）

【外交】

●ユルドゥルム首相、ハイリ・ソマリア首相と会談

10月26日、ユルドゥルム首相は、トルコ訪問中のハイリ・ソマリア首相と会談した。会談で、ユルドゥルム首相は、10月にソマリアの首都モガディシュで発生したテロ事件犠牲者への弔意を表しつつ、トルコがソマリアに支援物資を送ったように、今後も同国への支援を継続する旨発言した。(10月27日付M紙16面)



(写真は、10月26日付TRT Haberより)

経済

【マクロ経済】

●中央銀行、短期金利レートを据置き

10月26日、中央銀行は金融政策決定会合を開催し、1週間物レポ金利を8%、限界貸出金利を9.25%、通常翌日物貸出金利を7.25%、後期流動性ウィンドウの貸出金利を12.25%と据え置いた。(10月27日付HDN紙11面)

●ゼイベキジ経済相：「トルコリラ相場の変動は投機的なもの」

10月27日、ゼイベキジ経済相は、最近のトルコリラの対米ドルの為替変動は実態の経済力を反映したものではなく、投機的なものであると述べた。また、中央銀行は直接に外国為替市場に介入し、投機的な為替変動を操作しようとするべきではないとした。トルコリラの対米ドル為替相場は同日、最近9か月間で最安値の3.84トルコリラを記録。(10月28-29日付HDN紙1面及び11面)

●10月の経済信頼感指数、低下

10月30日、トルコ統計庁(TUIK)は、トルコの10月の経済信頼感指数は対前月比1.5%低下の101.4となったと発表。消費者部門、サービス部門及び小売部門の信頼感指数が下落したが、不動産部門及び建設部門はそれぞれ112.2及び84.2に上昇。(10月31日付HDN紙10面)

●9月の貿易赤字、85%拡大

10月31日、TUIKの発表によると、トルコの9月の貿易赤字は対前年同月比85%増の81.4億米ドルに達した。内訳は、輸出が同8.7%増の118億米ドル、輸入が同30.6%増の199億米ドル。(11月1日付HDN紙11面)

●トルコの金融部門の純利益、28.6%上昇

10月31日、銀行規制監督当局(BDDK)によると、2017年の最初の9か月間のトルコの金融部門の純利益は、対前年同期比28.6%増の372億トルコリラに達した。また9月時点でのトルコの金融部門の総資産は対前年比20.5%の3兆トルコリラ超となった。(11月1日付HDN紙11面)

●製造業の活動、8か月連続拡大

トルコの製造業の活動は10月までに8か月間連続で拡大した。ISOとHISマーケットの発表によると、製造業の購買担当者景気指数(PMI、50が景況感の分水嶺)は前月の53.5から微減し52.8となったが、50を依然として上回った。(11月2日付HDN紙10面)

●中央銀行、インフレ見通しを下方修正

1日、中央銀行は2017年のインフレ見通しを8.7%から9.8%に、2018年は6.4%から7%に下方修正し、インフレが改善するまで金融引締政策を続行すると発表。チェティンカヤ同行総裁は、最近のトルコリラの下落、原油価格及び一次産品価格の上昇の影響を受けた輸入品価格の上昇が、インフレ見通しに大きく影響を与えたと述べた。(11月2日付HDN紙11面)

【貿易】

●米国、トルコ他6国からの輸入鋼線材をダンピングと判定

10月25日、米国商務省は、トルコ、イタリア、韓国、南アフリカ、スペイン、ウクライナ及び英国が輸出する炭素鋼線材と合金鋼線材の価格がダンピングであると公表し、最高で147.63%のアンチ・ダンピング税を賦課するとした。トルコの関連業者に対しては、Habas Sinai ve Tibbi gazlar Istihsal Endustrisi社に2.8%、Icdas Celik Enerji Tersane ve Ulasim Sanayi社に8.01%、その他の生産輸出業者には5.41%のアンチ・ダンピング税を割り当てた。なお、2016年に米国はトルコから4,140万米ドル分の鋼線材を輸入している。(10月27日付HDN紙10面)

●トルコ製の靴、172か国へ輸出

2017年の最初の9か月間に、トルコは172か国に対して6.02億米ドル相当の靴を販売した。また、ギュルソイ・トルコ履物産業家協会会長は、トルコの靴の主要輸出先は近隣諸国であると述べた。トルコの最大の靴の輸出先国であるイラクへの同期間の輸出額は7,468万ドルとなり、続いてロシアが5,627万米ドルとなった。また、同会長は、内戦状態の続くシリアへの輸出も継続していると述べた。(10月30日付HDN紙10面)



トルコの靴輸出先国Top 10 (単位:100万ドル)	
1	イラク 74.7
2	ロシア 56.2
3	ドイツ 37.8
4	ブルガリア 37.3
5	サウジアラビア 29
6	ルーマニア 21.3
7	イギリス 17.1
8	イタリア 15.3
9	イスラエル 14.8
10	オランダ 13.8

(写真は、10月29日付HDN紙インターネット版、表はイスタンブール・テキスタイル・アパレル輸出業者協会(IHKIB)9月レポート参照)

●トルコの米国への自動車輸出、2倍に

10月30日、ウルダー自動車産業輸出業者協会は、2017年最初の9か月間で、トルコの自動車輸出額は対前年同期比21.6%増の207.7億米ドルに達し、特に米国向け輸出は同約2倍の9億6,728万米ドルとなったと発表。一方で、全輸出の77.7%はEU圏内の27か国向けで、ドイツが1位であった。(10月31日付HDN紙1面及び10面)

●トルコのカタールへの輸出額、29%増

10月30日、エーゲ海地域輸出業者協会(EIB)は、トルコのカタールへの輸出額は、2017年の最初の9か月間で対前年同期比29%増の3.82億米ドルとなったと発表。このうち、トルコのカタールへの食料輸出額は、同98%増の1億1,400万米ドルとなったと発表した。(11月1日付HDN紙11面)

●10月のトルコの輸出、15.6%増

1日、ユルドゥルム首相は、イスタンブールで開催された「トルコ輸出週間フェア」に出席した際、トルコの10月の輸出額は対前年同月比15.6%増の135億米ドルとなったと発表。また、トル

コ輸出業者会議(TIM)の発表によると、今年 10 月までの輸出額は、対前年同期比 11%増の 1,287 億米ドルとなった。(11 月 2 日付 HDN 紙 10 面)

【経済外交】

●ナヒチェバンにおける投資を振興

10 月 28 日、ゼイベキジ経済相は、ウードウル大学で行われたトルコ・アゼルバイジャン経済フォーラムで、トルコと国境を接するアゼルバイジャン共和国の「ナヒチェバン自治共和国」からトルコへの投資を促進するため、同自治共和国産の製品をトルコ国内において無税で販売する等の政策を発表。これにより、両国間の貿易額は 1.2 億米ドルまで拡大すると見込む。(10 月 30 日付 HDN 紙 10 面)

●パキスタンとの自由貿易協定締結へ秒読み

10 月 27 日、テュフェンキジ税関・貿易相は、トルコとパキスタンとの自由貿易協定締結に向けた交渉を終えたと発表。近日中に同協定に署名する。同相はパキスタン国内における活発なトルコ企業の動きに言及しつつ、トルコとして、イスラマバード、テヘラン、イスタンブールを繋ぐ地域の貿易回廊計画を重視していると強調した。(10 月 30 日付 HDN 紙 10 面)

●ボスニアとの貿易強化へ

10 月 26 日、ボスニア・ヘルツェゴビナを訪問中のファクババ食糧・農業・畜産相は、同国との農産品の貿易の増大はトルコの目標の一つであるとしつつ、近いうちに 10 億米ドルの貿易額目標を達成すると述べた。サラヴィッチボスニア・ヘルツェゴヴィナ対外貿易経済関係相は、トルコとの貿易バランスは毎年改善してきており、2016 年、トルコは最大の農産品の輸出相手国であったと述べた。(10 月 28-29 日付 HDN 紙 11 面)

【通信】

●トルコの通信衛星 Turksat5A/5B はエアバス社製に

10 月 26 日、アルスラン運輸海事通信相は、通信衛星 Turksat5A/5B の生産に関し、11 月 9 日付けでエアバス社と契約を結ぶ予定である旨発表した。入札にはエアバス社の他に、三菱電機(当館注: Turksat4A/4B を受注)及び MDA/スペースシステムズ・ロラル社(米・加共同)が参加。同相は、資金調達とトルコ国内への貢献度においてエアバス社が勝っていたとコメントした。(10 月 27 日付 HDN 紙 1 面及び 11 面)

●トウルクセル、新たな検索エンジン「YAANI」を発表

10 月 25 日、トルコの携帯事業最大手トウルクセルのテルズイオール CEO は、同社による新たな検索エンジン「YAANI」を発表。自国のデータを自国で保存し、サービス向上に役立てる。収集されたユーザーデータはグーグルにあるトルコ最大のデータセンターに集積。同検索エンジンは AppStore や GooglePlay からダウンロード可能で、インストールしたユーザーには 1GB の通信容量が無料で提供される。(10 月 27 日付 HDN 紙 10 面)

【交通】

●バクー・トビリシ・カルス鉄道、開通

10 月 30 日、バクー・トビリシ・カルス(BTK)鉄道の開通式が、エルドアン大統領、アリエフ・アゼルバイジャン大統領、クヴィリカシビリ・ジョージア首相が出席し、開催された。全長 826km の BTK 鉄道は現時点で年間 100 万人の乗客と 650 万トンの貨物の輸送能力を有するが、2034 年までにはそれぞれ 300 万人、1,700 万トンにまで増強される予定。エルドアン大統領は、BTK は欧州とアジアとをアナトリア経由で結ぶ中央回廊の支柱であり、大シルクロード計画の一部であると述べ、トルコのファンドを利用し資金調達を行った点を賞賛。(10 月 31 日付 HDN

紙 1 面及び 10 面)



(写真は、10 月 30 日付 HDN 紙インターネット版より)

【企業等の動き】

●アイテミズ社、高速充電スタンド提供へ

10 月 30 日、燃料販売代理店のアイテミズ社は、ハイブリッド車及び電気自動車への高速充電サービスの提供をガソリンスタンドで開始したと発表。同サービスは、ブルサの北西地域のアイテミズ高速道路ガソリンスタンドにおいて提供される。エケ同社 CEO は、同社は電気自動車市場で優位に立つことを目指すと発言。(10 月 31 日付 HDN 紙 11 面)



(写真は、10 月 30 日付 HDN 紙インターネット版より)

●ターキッシュ・エアラインズ、アンカラ・パリ間の直行便を開始

10 月 31 日、ターキッシュ・エアラインズ社はアンカラ・パリ間の直行便の運航を開始した。TAV アンカラ・エセンボア社のデミレル空港ゼネラルマネージャーは、同便は毎週火曜日と土曜日の運航が予定されていると述べた。(11 月 1 日付 HDN 紙 10 面)

【観光】

●トルコの第 3 四半期の観光収入観光収入、37.6%増

10 月 31 日に発表された TUIK のデータによると、トルコの今年の第 3 四半期の観光収入は対前年同期比 37.6%増の 114 億米ドルであった。なお、トルコの観光収入は、第 1 四半期に対前年同期比 17.1%減の 34 億米ドルであったが、第 2 四半期には同 8.7%増の 54 億米ドルであった。(11 月 1 日付 HDN 紙 10 面)

治安

【ISIL関係】

●イスタンブールにおいてテロ攻撃を企図していたISIL戦闘員4名を拘束

10月27日、警察は、イスタンブールのエセンユルト区とアルナブットキョイ区のビルにおいて連続して爆発があったため、テロ対策オペレーションを実施し、現場から化学物質、金属製の円球、釘、ネジ、リモコン、電子回路、ケーブル、電池等を押収

した。翌28日、警察が同爆発事案に関与した疑いのあるISIL戦闘員を追尾したところ、バイラムパシャ区にあるショッピングモール内で同戦闘員らの車両が発見され、現場にいた被疑者4名全員が拘束された。発見された車両とバイクから自家製爆弾66個とリモコンが発見され、ショッピングモール内においても、貴重品保管庫から爆発物が詰められた電子レンジ4台が発見された。ショッピングモールで拘束された4名のうち2名は、トルコ系オーストリア人であり、過去5年間、アルナブットキョイ区で居住していた。(10月30日付HDNインターネット版)



(写真は、10月28日付HDNインターネット版より)



(写真は、10月30日付HDNインターネット版より)

●警察がアンカラにおける対ISILオペレーションで容疑者49名を拘束

10月28日、警察は、アンカラにおいて対ISILオペレーションを実施し、容疑者49名(全て外国人)を拘束した。一部の容疑者は、以前ISIL戦闘員として海外での戦闘経験を有しており、10月29日の共和国記念日をテロの標的としていたと見られている。(10月28日付HDNインターネット版)

●警察がイズミルにおいてISIL戦闘員10名を拘束

10月28日及び29日、警察は、イズミルにおいて2回のオペレーションを実施し、容疑者10名を拘束し、ISIL関連のデジタル資料を押収した。容疑者らは、28日にイスタンブールで拘束された容疑者と関連しており、テロリストに爆発物を供給していたと見られている。(10月28日付HDNインターネット版)



(写真は、10月29日付S紙インターネット版より)

●警察がイスタンブールでPKK容疑者27名を拘束

10月28日、警察は、イスタンブール市内の12区で対PKKの一斉オペレーションを実施し、テロ攻撃を準備していた容疑者27名を拘束し、拳銃2丁、ライフル1丁、弾薬27発及びPKK関連文書を押収した。(10月28日付HDNインターネット版)



(写真は、10月28日付HDNインターネット版より)

●警察がアダナ県でPKK容疑者13名を拘束

10月28日、警察は、アダナ県において、過去に違法なデモンストレーションに参加したPKK容疑者13名を拘束し、ライフル1丁を押収した。(10月28日付HDNインターネット版)

●内務省が過去1週間の治安成果を発表

内務省は、10月23日からの1週間において、FETO、PKK、KCK、ISIL、極左グループに対するオペレーション1,570回を実施し、1,256名を拘束したと発表した。PKKについては、戦闘員44名が無力化(殺害19名、拘束12名、投降13名)され、食料2トン、武器30丁、爆発物原料362キロ、弾薬6,287発、即席爆弾104個が押収された。(10月30日付HDNインターネット版)



(写真は、10月30日付HDNインターネット版より)

【FETO関係】

●イスタンブール検察庁がFETO容疑者112名に逮捕状を発布

1日、警察は、イスタンブール検察庁がFETO容疑者112名に対して逮捕状を発布したことを受け、アンカラ、イズミルを含む国内16県においてオペレーションを実施した。イスタンブールでは、FETO関連の報道機関に対するオペレーションが実施された。(11月1日付S紙インターネット版)

【その他】

●アンカラの警察学校が過去6年間で18か国、3,711名の警察官を訓練

アンカラの警察学校は、2011年から現在までに、18か国から3,711名の警察官を受け入れており、昨年は、アルバニア、モルドバ、ボスニア、カザフスタン、モンゴル、キプロス、モンテネグロ、アフガニスタン、パキスタン、セルビア、グアテマラ、スーダン、ヨルダンの警察官に対して組織管理、人事管理、捜査技術、射撃等の訓練を提供した。アフガニスタン警察からの受入れが最多となっており、今年も10月15日から350名の女性警察官が入校している。(10月30日付S紙インターネット版)

●治安機関がエディルネ、カスタモヌ、ムーラ県で610名の移民を拘束

10月30日、治安当局は、合計で610名の移民を拘束した。エディルネ県でシリア、パキスタン、モロッコ、ミャンマー、バングラデシュ人を含む434名が不法にギリシャとブルガリア国境を越えようとしていたところを拘束され、トルコの移民局へ送られ

た。同日、カスタモヌ県においては、パキスタン、アフガニスタン、イラン、イラク、シリア人を含む移民148名が乗車するトラックが走行中に摘発された。10月28日には、ムーラ県において、アフガニスタン人、ソマリア人、シリア人を含む移民28名がバスターミナルで拘束され、フェティエ警察に移送された。(10月30日付S紙インターネット版)

軍事

●トルコが国産アサルトライフルの輸出を開始

トルコ初の国産アサルトライフル「MPT-76」の輸出が開始され、450丁がソマリアへ輸送された。同ライフルの有効射程距離は600メートルであり、毎分700発を発射することが可能である。トルコは、外国製の武器への依存を軽減するため、同ライフルの大量生産を始めている。(10月30日付S紙インターネット版)



(写真は、10月30日付S紙インターネット版より)

社会

●ネムルト山への観光客、5万2千人

26日、アナドル通信は今年1月から9月までにトルコ南東部に位置する観光地ネムルト山を訪れた観光客が5万2千人に達したと伝えた。1987年にユネスコ世界遺産に登録されたこの山は、山頂付近に残された高さ50メートル、幅150メートルの神殿跡やペルシャ時代の石像で世界中の人々を魅了している。(10月27日付HDN紙2面他)

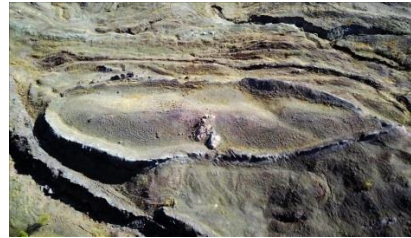


(写真は、10月27日付HDN紙インターネット版より)

●アメリカ人教授、「ノアの方舟」伝説を探索

トルコ国内外の科学者108名が参加した「アララト山とノアの方舟」に関するシンポジウムで、米国のポール・エスブランテ教授は、アララト山周辺で地元の科学者、地質学者、考古学者と共にノアの方舟の形跡を探索したいと語った。「大洪水とノアの方舟」を巡っては、ユダヤ、キリスト、イスラムの各教典で言及され、何世紀にもわたり探索が行われているが、これまでに物的証拠は見つかっていない。

(10月27日付HDN紙7面他)



(写真は、10月27日付HDN紙インターネット版より)

●マルマライの利用客、4年で2億2千600万人

29日、アルスラン運輸海事通信相は、ボスポラス海峡横断地下鉄マルマライの利用客が2013年10月29日開通以来、2億2千600万人に達したと発表した。同相は「1日の利用客数は多い時で20万に達する。マルマライはイスタンブールの交通渋滞を緩和するだけでなく、環境にも優しい。」と述べた。

(10月31日付HDN紙1面他)

●ルメリ・ヒサル城塞、大規模修繕へ

ボスポラス海峡沿いに位置する重要な歴史的建造物のひとつ、ルメリ・ヒサル城塞の大規模修繕プロジェクトが承認された。1452年に建築され、1950年代に屋外博物館になった同城塞は、以前にも、1953年から4年間かけて修繕されている。

(10月31日付HT紙1面他)

●第三空港完成に伴い約15万人が周辺に居住予定

来年10月の第三空港完成を控え、空港関係者だけで15万人が周辺地域への居住を予定している。同地域では空港完成に伴い増加する需要を見越してアパートの建設ラッシュが続く、地元の不動産業者には問合せが相次いでいる。

(11月1日付H紙11面他)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

機関・団体等

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	首相府緊急災害事態対応総局	PKK	クルディスタン労働党
AKP	公正発展党	PYD	シリア民主主義連合党
BDDK	銀行規制監督庁	RTUK	ラジオ・テレビ高等機構
BOT	建設・運営・譲渡方式	SNC	シリア国民評議会
CHP	共和人民党	SPK	証券取引監査院
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	TBB	トルコ弁護士協会/トルコ銀行協会
DHMI	国家航空局	THY	ターキッシュ・エアラインズ
HDP	国民民主党	TIKA	トルコ協力発展機構
IDO	イスタンブール海上フェリー会社	TOKI	トルコ集合住宅開発局
ISO	イスタンブール工業会議所	TPAO	トルコ石油公団
ISID	イラク・レバントのイスラム国	TUBITAK	トルコ科学技術研究機構
ITO	イスタンブール商業会議所	TUIK	トルコ統計庁
KRG	クルディスタン地域政府	TUPRAS	トルコ石油精製会社
MHP	民族主義者行動党	TUSIAD	トルコ産業・実業家協会
MIT	国家情報庁	YOK	トルコ高等教育評議会
MUSIAD	トルコ独立産業家・実業家協会	YSK	選挙高等委員会

引用メディアの略称

略語	正式名称	略語	正式名称
A	Aksam	HDN	Hürriyet Daily News
AA	Anadolu News Agency	HT	Haberturk
AFP	Agence France Presse	IA	Inlas News Agency
Cumhuriyet	Cumhuriyet	JP	Interpress
D	Dünya	M	Milliyet
DA	Doğan News Agency	P	Posta
DS	Daily Sabah	S	Sabah
H	Hürriyet	V	Vatan

在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600、FAX：0212-317-4604、E-Mail：istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB：http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html

Facebook：http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

- トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。
- 新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。
istanbulweekly@it.mofa.go.jp

【被害】

イスタンブール邦人被害統計

2017.1.1～2017.11.2 ※総領事館に訴出があったものを集計

	窃盗		詐欺		ぼったくりバー		高額絨毯購入(相談)	
	今週	通算	今週	通算	今週	通算	今週	通算
2016年		7件		2件		24件		2件
2017年	0件	6件	0件	1件	0件	11件	0件	0件

★当館 HP 更新のお知らせ★

- 第4回トルコ折り紙コンテストの開催(報告)(11/1) **NEW**
- 東海市・ニルフェル区姉妹都市提携10周年記念式典(報告)(10/31) **NEW**
- 鬼太鼓座・トルコ和太鼓講演について(報告)(10/27) **NEW**
- 日本イズミル文化友好協会(JIKAD)外務大臣表彰式(報告)(10/27) **NEW**
- 平成29年度領事サービス向上・改善のためのアンケート調査(11/01) **NEW**
- 2018年度補習授業校講師募集のお知らせ(10/31) **NEW**
- イスラム教シーア派の宗教行事「アルバイーン」に伴う注意喚起(10/30) **NEW**